

小麦播種遅延時の生育確保技術

福島県農業試験場会津地域研究支場
平成14～17年度試験成績概要

1 部門名 普通畑作物—小麦—作期・生育調節・施肥法・会津平坦
分類コード 02-02-18161367

2 担当者 渡部隆・渡邊洋一・山内敏美・齋藤正明・齋藤弘文

3 要 旨

会津地方において、小麦の播種時期が播種適期(9月下旬～10月上旬)より遅れると、生育量不足から作柄が不安定となり、収量が低下する課題を解決するため、連続した荒天等でやむをえず、播種が遅れた場合を想定し、播種遅延時(10月下旬播種)の生育確保技術について検討した。

(1)播種量を標準播種量より5割増やすことにより生育量が確保され、収量が15～20%増加する。

(2)標準施肥に加えて、4月中旬に窒素成分量で0.3kg/aを上乗せ施用することにより生育量が確保され、収量が60%程度増加する。

(3)肥効調節型肥料を用いた基肥一発施肥の場合、LP40(40日溶出タイプ)が適しており、施用量は標準施肥の合計窒素施用量と同量とする。これにより、収量は10%程度の増加する。

4 その他の資料など